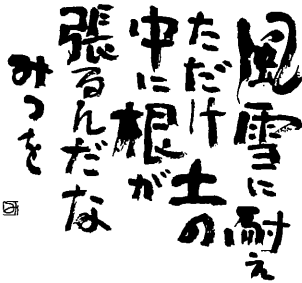


さくら第509号

令和 4年 5月

## さくら

発行所 さくらそろばん  
発行者 平瀬重雄  
春江町境 17-7:TEL51-1337  
hirase@mx2.fctv.ne.jp

## 『気持ちを切り替えて…』

令和2年3月2日(月)から全国の小学・中学・高校・大学での授業が新型コロナウイルス感染防止策として休校となり、いまだかつてない出来事でこれまでの生活様式が一変し、マスク着用、うがい、手洗いが家庭や学校でも徹底され長いガマン生活が始まりました。

社会生活も様変わりし、ほとんどの行事が感染の拡大を押さえるために中止となり、学校では卒業式や入学式などの最大行事が縮小され、5年生以下の在校生は各教室でテレビ画面に映る姿を見るだけであり、保護者の数も各家庭一名に限定されるなど、ハレの日をみんなで祝福することもかないません。

小学6年生の最大関心事である修学旅行は県内に限定され中学生も芦原温泉で一泊するなどしました。

ようやく感染がおさまるかと思いきや、オミクロン株なる新たな細菌が流行しはじめ、小学生などの低年齢の人たちに急速拡大しその感染力は強く休校が相次ぎました。

さらにまた新たなコロナウイルス株が発見されたともいわれ、いつになれば収束するのかと不安な日が今もお続いています。

ワクチン接種が全国的に開催され3回目接触者も多くなり、次は低年齢者にも接種されるようになりました。いろんな副作用を危険視しその接種に二の足をふむ保護者もいるようですが、まだしばらくは無理なようです。

感染拡大防止策の最大効果は手洗いとマスク着用、そして人が密にならない事でしょう。

不織布マスク1枚をつけた時の感染防止効果について理化学研究所などがスーパーコンピュータ「富岳」で計算したところ、鼻の部分の金具をとくにさわらずにつけた場合は69%、金具を鼻にあわせて曲げ密着するようつけた場合は85%の飛沫(ひまつ)を捕らえたといえます。金具を曲げてもすき間がある時は81%だったといえます。

不織布マスクですき間がある状態で外側にウレタン製のマスクをかぶせて二重マスクにした場合は89%だったとのこと。不織布マスクを2枚重ねにした場合についての実験では、飛沫を防ぐ効果が大幅に高まることはないようです。鼻の部分のすき間がないようにきちんとつけることが大事といえます。

ウイルスは感染者のだえきなどに含まれ、せきやくしゃみ、呼吸によって飛沫が飛び散ります。非常にこまかい飛沫は「エアロゾル」とよばれ、空気中をただよみます。マスクは口から出るウイルスを止め、ウイルスを吸い込まないことが目的です。

呼吸で吸い込む飛沫の量は、何もつけない状態を100%とすると、ウレタンのマスクをつけると60~70%、布は55~65%、不織布のマスクは30%に抑えていたといえます。さくら令和2年7月号で宇宙飛行士の若田光一さんがコロナ感染過での過ごし方について3つの事を話していたことをもう一度書いてみます。一つ目は家庭での何気ない会話が大事であり、2つ目がユーモアの効果、3つ目はできないことを悩むより今できることから進むとしています。

学びと遊びのメリハリある生活を、ふだんと変わらずにキチンとすることが大事といえます。コロナ過での生活がもう3年目になります。まだマスクを離せない日々ですが、マスクをつけると気が落ち着く、目以外の顔の部分を隠すので人に見られているという気持ちが和らぐので、コロナ収束後もマスクをつけるほうが安心するという声も少なくないようです。でもやはり、いつも素顔で話したいものです。